

2021/05/16

ヨハネの福音書 講解メッセージ⑤⑩

『リアリティのある信仰』ヨハネ 16:12-16:24

■神の肯定を受け取る

「わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。」(ヨハネ 16:12)

「真理に耐える力がない」とは、どういうことでしょうか。神の真理とは、私たちを肯定し、共に生きることです。なぜ私たちは、この真理を受け入れられないのでしょうか。

それは、自分を肯定することが、人間にとって最も難しいことだからです。すべての人が、「自分はダメな人間だ」と自分を否定し、ダメな自分をよく見せようと努力しています。神は私たちを無条件で肯定し、愛してくださるのですが、自分を否定する者からすると、自分を肯定する力は恐怖です。旧約聖書に、「神の怒り」という表現が多く出てきますが、それは、人を肯定する神の愛なのです。神は、あなたを肯定しているので、あなたを否定するものに対して怒ります。すると、自分を否定する私たちにとっては、自分が否定されていると感じて恐怖になってしまうのです。

私たちが自分を否定するのは、神の愛が見えなくなったからです。人は土地のちりて体を造られ、神のいのちを吹き込まれて生きるものとなりました。神のいのちは神の愛を発信します。その愛を確認するために造られたのが体です。ところが、罪によって死が入った結果、人は永遠性のものが認識できなくなり、神の愛が認識できなくなってしまいました。つまり、神の愛を知っていながら確認できない状態になってしまったのです。ですから、人は皆、あるはずのものが見えないという不安を抱えています。

また、死によって有限性になった自分の姿を見て、私たちは自分自身を否定してしまいます。そこで、富や名誉といった、この世の見えるもので自分を飾り、安心を得ようとするようになりました。しかし、神は、そんなものはあなたを肯定するものではない、あなたを肯定するのは神の愛だと言われます。すると、私たちは、それまで自分を肯定していたものをはぎ取られてしまう恐れから、神の肯定を受け入れることができないのです。

ある時、イエス様のところに来た青年が、「永遠のいのちを手にするにはどうすればよいか。」と質問しました。イエス様が「神の戒めを守りなさい」と言われると、「それは全部やっています。他に足りないところがあるでしょうか。」と言うので、イエス様は「持ち物を全部売って貧しい人に施しなさい。」とお答えになりました。イエス様が言いたかったことは、「本当に自分を肯定したいなら、自分で自分を肯定することはやめ、神の肯定を受け入れなさい。」ということです。しかし、非常に金持ちだったこの青年は、それが実行できませんでした。

人は、自分で自分を否定しているので、神の肯定を受け入れられません。富や名誉や権威などで自分を飾り、自分を肯定したつもりでも、この世界のものはやがて失われる時が来ま

す。失われるもので自分を肯定するのは、自分を否定することです。私たちが肯定することができるのは、神様だけなのです。

「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。父が持つておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。しばらくするとあなたがたは、もはやわたしを見なくなります。しかし、またしばらくするとわたしを見ます。」そこで、弟子たちのうちのある者は互いに言った。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と主が言われるのは、どういうことなのだろう。」そこで、彼らは「しばらくすると、と主が言われるのは何のことだろうか。私たちには主の言われることがわからない」と言った。」(ヨハネ 16:13-18)

弟子たちは、イエス様の言われたことをごんぱって考えたのですが、わかりませんでした。それは、理性で納得しようとして考えたからです。有限性しかわからなくなった体では、永遠性の神を理解することはできません。ですから、今の私たちには受け入れる力がないと、イエス様は言われたのです。大切なことは、聖書がそのように教えているから信じる、という姿勢です。そのために、イエス様は、十字架と復活を用意してくださったのです。

■悲しみを喜びに変える信仰

「イエスは、彼らが質問したがっていることを知って、彼らに言われた。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』とわたしが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。」(ヨハネ 16:19-20)

「イエス様を見なくなるが、しばらくすると見る」「あなたがたは嘆き悲しむが、喜びに変わる」とは、十字架とよみがえりのことです。あなたがたは有限性であるために、イエス様のことばが理解できず、十字架によって嘆き悲しむけれど、復活を見ることによって、神のことばが確認できるようになると、イエス様は言っておられるのです。イエス様は、何度も「私はよみがえる」と言われましたが、誰も信じませんでした。有限性の世界ではありえないことだからです。それが、実際に復活することによって、神のことばは現実であることを知

ることができるようになるのです。

死によって有限性になったため、私たちは、自分のいのちの土台である神が確認できなくなりました。しかし、神の愛の運動は止まることはなく、私たちと再び結びつこうと働きかけ続けています。神の愛は私たちを 100%肯定しますが、私たちの理性はそれを否定し、受け入れられません。そこで、神の愛は理性を無視して、信仰に直接働きかけます。「悲しみが喜びに変わる」とは、理性が悲しみという否定を引き受けている間に、神の愛はそれを無視して信仰に働きかけるので、信仰が芽を出し、肯定を体験するということです。その体験がよみがえりなのです。

「女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの人が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」(ヨハネ 16:21-24)

イエス様の復活を現実に目にするなら、もう何も尋ねる必要はありません。だから、イエス様は、「疑うことをやめ、本気で神様に解決を求めよ」と言われます。イエス様は、「否定は喜びに変わるから大丈夫だ」と語り、「恐れるな、私は必ずあなたを助ける、脱出の道がある」と約束しています。

この世界では物事には必ず原因があり、すべてが因果関係で結ばれていますが、神は永遠性で自由ですから、因果関係には支配されません。たとえ医療の限界にぶつかっても、神様は病人に手を置けば癒されると言われました。因果関係による解決がなくても、神様は脱出の道があると言われます。神のことばは永遠性で自由であるということは、この世界の因果関係を壊すということです。病気の原因を飛び越えていやし、すべての問題の因果関係を壊し、助け出してください。イエス様は、十字架によって、「死」という決定的な因果関係の最終的ゴールを壊して、あなたを自由にすることを示されました。だから、「あなたの悲しみを喜びに変えるから祈りなさい。」と、言われるのです。

いやしや奇跡を経験することによって、私たちは神の前にへりくだり、神の愛を受け取ることができるようになります。

ある時、イエス様は、道の途中で 10 人の重い皮膚病の人たちに出会いました。いやしを求める彼らに、イエス様が「祭司のところに行って見せなさい」と言うと、行く途中で全員がいやされましたが、イエス様のもとに戻ってきて感謝したのは一人だけでした。イエス様は

彼に、「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」(ルカ 17:19)とおっしゃいました。

「立ち上がれ」とは、罪が赦されたという肯定の宣言です。イエス様は彼に、「あなたは、神に肯定されている自分を受け取ることができた。」つまり、「罪の赦しを受け取ることができた」と宣言なさったのです。全員がいやしを体験しましたが、このイエス様のことばを受け取ったのは、一人だけでした。(ルカ 17:11～)

神のもとに戻ってへりくだり、神の肯定の宣言を受け取ること、これが真の奇跡の体験です。本当の奇跡とは、見えるところの体験ではなく、神の前にへりくだり、神が私たちが愛していると受け取ることなのです。

弟子たちは、イエス様のことばに対して、「信じます」とは言わず、「わかりません」と言いました。それは、神の前にへりくだることができず、自分の頭で理解しようとしたからです。大切なことは、へりくだって神の肯定を受け取ることです。イエス様が「なんでもいいから、求めてみよ。」と言っておられるのは、祈りを通してへりくだり、神の肯定を受け取るためです。

■つぶやくなら徹底的に

イエス様は「どんなことでも求めなさい」と言っておられますが、実際に祈ってみると、奇跡が起きないことがあります。神は状況を静観し、私たちが絶望に追い込むことで、私たちが神の前にへりくだることができるように導かれることがあるのです。

パウロは、多くの人の病をいやしましたが、自分自身の病気はいやされませんでした。このことを通して、パウロは自分の弱さを知り、砕かれて、神の前にへりくだることができました。神の恵みは、自分を低くする者を引き上げます。神の前にへりくだったパウロに、神の恵みが働き、パウロは神の恵みを受け取るという素晴らしい真理に気づきました。

つまり、神が私たちに体験させたい信仰とは、それでも神はあなたを愛しているという事実です。神があなたを背負っておられ、自分と神は一つだと実際に体験させ、こんな私でも愛されていると本当にわからせることが、リアリティのある信仰であり、奇跡です。そのために神は現実の問題に、解決を与えないこともあるのです。問題が解決されても、10人のうち一人しか戻ってきませんでした。一番重要な信仰を受け取ったのは一人だったということです。イエス様は「祈りなさい」と言い、そのための助け主も与えられています。あきらめないで祈り続け、あなたと神は一つだという事実を受け止めましょう。弟子たちの信仰の問題点は理性にありました。イエス様は、彼らの頭の信仰をリアリティのある信仰にしようとしたのです。神のことばに対して、理性で理解しようとするのではなく、「信じます」と、神の前にへりくだって、神の恵みを受け取ることが大切です。もし、神の恵みを受け取ることができずにつぶやくなら、人に当たるのではなく、神に対して徹底的につぶやきましょう。神様は必ず答えてくださいます。その体験をした人がヨブです。

「主はあらしの中からヨブに答えて仰せられた。知識もなく言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。さあ、あなたは勇士のように腰に帯を締めよ。わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。あなたに悟ることができるなら、告げてみよ。あなたは知っているか。だれがその大きさを定め、だれが測りなわをその上に張ったかを。その台座は何の上にはめ込まれたか。その隅の石はだれが据えたか。そのとき、明けの星々が共に喜び歌い、神の子たちはみな喜び叫んだ。海がふき出て、胎内から流れ出たとき、だれが戸でこれを閉じ込めたか。そのとき、わたしは雲をその着物とし、黒雲をそのむつき（産着）とした。わたしは、これをくぎって境を定め、かんぬきと戸を設けて、言った。「ここまでは来てもよい。しかし、これ以上はいけない。あなたの高ぶる波はここでとどまれ」と。」（ヨブ記 38:1-11）

ヨブが、自分の苦しみに耐えかねて、自分の不満を洗いざらい神にぶちまけると、神は答えてくださいました。神は、「この世界を造ったのは私だ」と示して、「あなたが来れるのは、ここまで」と、ヨブの高ぶりを止められたのです。ヨブは、神のことばを聞いて砕かれ、神の前にへりくだりました。

「ヨブは【主】に答えて言った。「あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。知識もなく、摂理をおおい隠す者は、だれか。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。さあ聞け。わたしが語る。わたしがあなたに尋ねる。わたしに示せ。私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔いています。」

（ヨブ記 42:1-6）

ヨブは、自分の限界と高ぶりを知って悔いた時、同時に、それでもあなたを愛しているという肯定を受け取りました。こうして、神はヨブを引き上げたのです。

神の愛の運動は、私たちが神の愛を頭で理解するのではなく、リアリティをもって体験し、喜びを受け取れるように動き続けています。ですから、神は、理性・傲慢と徹底的に戦うのです。神の愛を否定する理性を否定し、あなたを肯定して、神の愛をリアルに受け取らせようとなさいます。

ヨブは、「この目で神を見た」と告白しています。それは、神を体験したということです。神の助けと信仰によって、それができるのです。「こんな私でも愛されている。赦されている。」と知って、神の肯定を受け取ることができるのです。

十字架からのよみがえりによって、弟子たちはそういう体験をしました。神が現実になる、これが悲しみから喜びに変わる信仰です。

「そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——主の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

(エレミヤ 31:34)

こんな私でも愛されていると、現実に体験する時、神は遠い存在ではなく、共に生きる友になります。これを体験できるようにする、というのが、神の永遠の契約です。

それは、「あなたの罪を赦し、もう思い出さない。」という愛を経験するということです。それを示しているのが十字架です。十字架とよみがえりによって、自分を否定する否定を撤廃しなさいとイエス様は弟子たちに最後の言葉として語られたのです。

イエス様が「求めなさい」と言われたのは、神に祈ることで、あなたは奇跡を見るか、へりくだるかすることになり、やみの中で肯定されている自分を見ることができるようになるからです。こうして、リアリティのある信仰に至ることこそ、真の奇跡であり、すべての祈りの答えです。